



自然エネルギー活用住宅普及促進協議会

<http://www.shizenenergy-katsuyo.com>





設備に頼らず、自然の恵みを取り入れた住まいを広めたい…。
そんな想いで「自活協」を起ち上げました。

はじめまして。私たちは、自然エネルギー活用住宅普及促進協議会と申します。

長くて堅い名前なので、簡潔に「自活協」(ジカツキョウ)と呼んでください。

名前の通り、私たちは自然のもつエネルギーを活用して、快適で健康的、丈夫で長持ちして、
地球環境にも優しい家づくり「自然エネルギー活用住宅」を日本全国に広める仕事をしています。

自然エネルギー活用住宅とは…

太陽や大地の温もり、風の涼しさといった自然の中にある温熱エネルギーを活用して、夏は涼しく、梅雨は爽やか、冬には暖かく、つまり一年を通して快適に健康的に過ごせる住宅のことです。

自然の恵みを取り入れる住まい

自然の中には、快適な自然と不快な自然があります。暖かな太陽、温もりのある大地、涼しい風、優しい雨、マイナスイオンがいっぱいの爽やかな朝の空気…みんな私たちを心地よい気分にさせてくれます。

一方で同じ太陽、風、大地が、酷暑、紫外線、極寒、台風、竜巻、豪雨、地震などの自然災害を引き起こすことがあります。

こうした避けたい過酷な自然から住まう人を守りつつ、自然の恵みをたっぷり取り入れるようにつくられる家を「自然エネルギー活用住宅」と呼びます。

世代を超えて住み継がれる丈夫な家をつくりたい…

私たち自活協が思い描く理想の住宅は、それぞれの土地の気候風土の特性に合った住まいであって、二世帯、三世帯の家族が住み継ぐことができる長寿命の「環境共生型の地域住宅」です。



昔もいまも、これからも、日本の家づくりの基本は「自然エネルギー活用住宅」です。

先人の知恵を受け継ぐ在来工法

奈良、平安時代の寺院建築や江戸時代に建てられた古民家の中には、びっくりするほど長持ちしている建物があります。室町時代の賢人、兼好法師は「家を建てるなら夏の気候にあった住宅にすべきだ」と語りました。日本の気候は高温多湿、夏が暑く、雨が多いので、快適に過ごして長持ちする家をつくるには夏対策と湿気対策が大切だよ、という話です。

昔から大工・棟梁は、この言葉を守ってきました。断熱性に優れた茅葺き屋根、暑い日射を遮る深い庇、日差しや風を遮るスタレ、庭の自然とふれあえる縁側、家の中に空気の流れをつくる地窓、木材に空気が触れるような工夫、周囲の自然の中にふんだんにある木を使った家づくり…酷暑の夏を快適に過ごし、雨で濡れても早く乾燥させる工夫をしていたのです。

こうした先人の知恵を現代の家づくりに活かしたものが「自然エネルギー活用住宅」というわけです。

国の住宅政策も自然エネルギー活用住宅に注目

戦争で家を失った人々のために、出来るだけ効率よく住宅を供給したいという政策と高度成長経済を背景に工業化された住宅が量産されていきました。多くは自然とのふれあいを断ちきり、機械設備で快適な室内環境をつくらうとするものでした。

1973年に中東戦争を引き金に起こった石油ショックで、日本経済は打撃を受け、省エネルギーが国家的な課題となりました。住宅にも省エネルギー基準が設けられました。

1992年、地球サミットが開かれ、地球環境の汚染や資源の有限さが確認されました。同年には、地球温暖化の進行とその原因が二酸化炭素(CO₂)の排出であることも判明しました。

省エネルギーとCO₂削減は、すべての産業にあって基本指針となり、住宅業界では省エネルギー住宅、高断熱・高気密住宅、太陽光発電、オール電化住宅などが提案されました。住宅の高気密化は、結露による腐朽や有害成分を含む建材などが原因のシックハウス症候群を招くというマイナス面でクローズアップされました。

こうしてCO₂削減、省エネルギー、リサイクルなどの省資源、環境や住まいを汚染しない安全な資材、持続可能な経済活動といった流れが形成されました。国の住宅施策である長期優良住宅普及促進法もこの流れの中で積極的に推進されています。



自然エネルギー活用住宅は、スマートハウスよりも
スマート、だと、私たちは思っています。

大震災で見直された自然エネルギーの可能性

2011年3月11日の東日本大震災をきっかけに暮らしのエネルギーを見直そうという動きになりました。CO₂を排出しない原子力発電が地震と津波で破壊され、危険な放射能が放出するという大事故になったのです。

より安全で再利用が可能な自然エネルギーへの期待が大いに高まりました。

3.11以来、国のエネルギー政策は、太陽や風、地熱などの自然エネルギーを利用した発電技術の開発と、住宅内の創電、蓄電、省エネ設備をコンピュータで制御し、節電と快適さをめざすスマートハウス構想を推進していくという2つの方向で進んでおります。

スマートハウスのようなITと最新設備を駆使した技術を導入することも必要だと思えます。でも、私たちは、設備依存の家づくり、設備依存の生活よりも、自然の恵みを受けて少ないエネルギー消費でも健康で快適な暮らしが楽しめる自然エネルギー活用住宅をこれから家を建てる人たちにお奨めしていきたいと思えます。

太陽、風、大地のエネルギーを存分に利用して、夏を涼しく、冬を暖かく一年中快適に過ごせます。

夏暑くて冬寒い。日本の気候に適した家の工法が自然エネルギー活用住宅には取り入れられています。

例えば冬は通気口を閉じることによって寒さから建物を守り、

反対に夏は通気口を開くことによって暑さや湿気から建物を守ります。

建物が衣替えするというイメージです。

また地熱を利用したり、外張り断熱をすることによって一年中快適に過ごせる室内をつくりあげます。

「夏モード」と「冬モード」で衣替えする家

夏モードでは、外側と内側の壁の間に空気の流れをつくり、空気を下から上へ流すことで、太陽熱による熱気がとどまらず、接している内側の壁も熱くなりません。だから輻射熱によって屋根裏が熱くなることはありません。冬モードでは、空気の流れをつくることによって躯体を爽やかに保ち、結露の原因となる湿気が発生しないようにします。

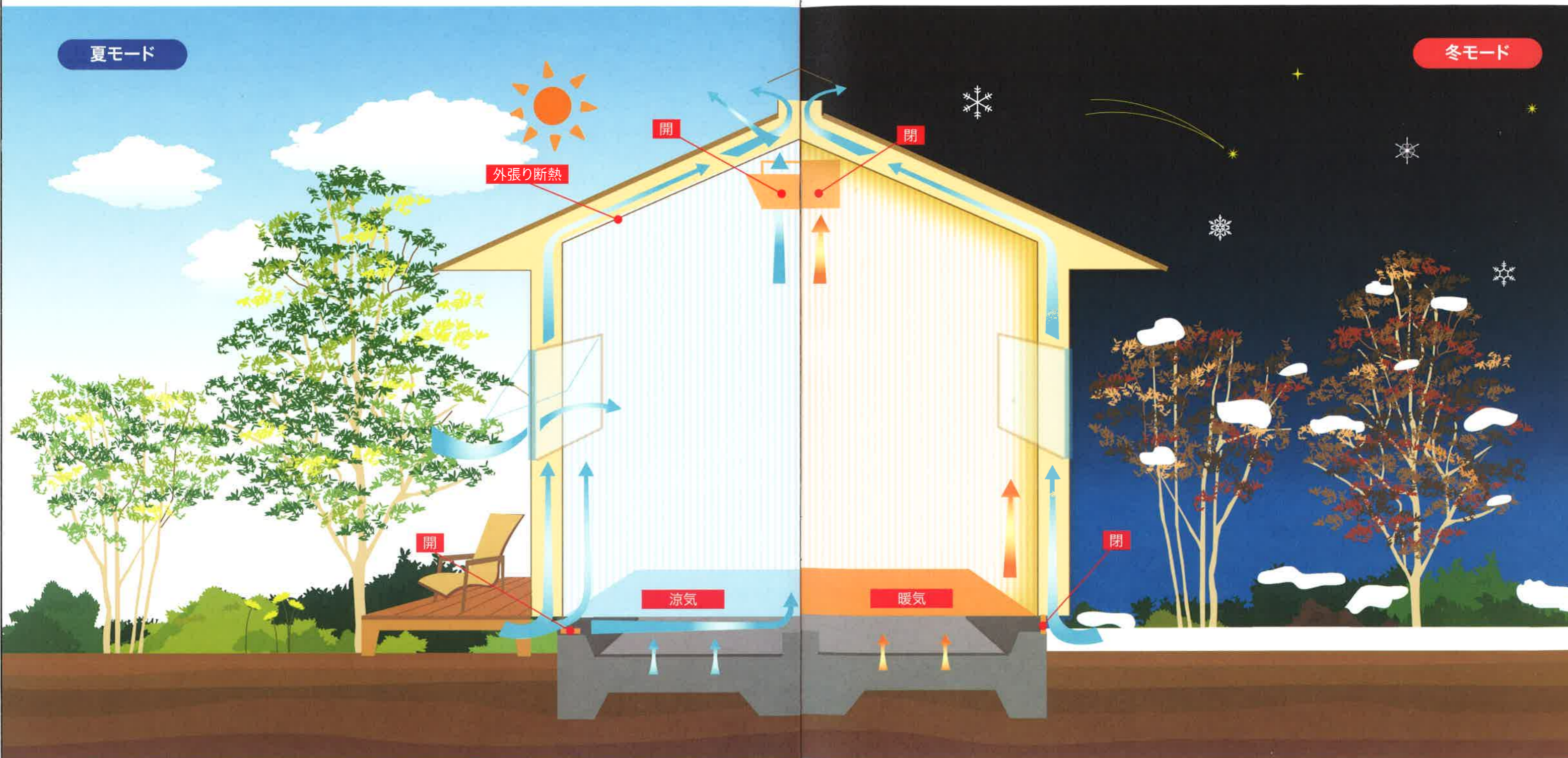
外張り断熱工法により、夏は太陽の熱を遮熱し、冬は冷

たい空気を中に入れず、建物内の暖かい空気を外に逃がしません。

建物の内側は通気口の開閉により、夏は開くことで、地熱からくる涼気を建物の躯体内に空気の通り道を設けて小屋裏まで流すことで、建物の中に涼しい風が流れます。冬は通気口を閉じることで暖かい空気を外に逃がしません。逆に冷たい空気は中にとりこまないようにします。

夏モード

冬モード





私たちと一緒に「自然エネルギー活用住宅」を広めていきませんか？

私たち自活協の仲間は、30年近く、「壁体内通気」という自然エネルギーを活かす住宅を供給し、数万棟におよぶ実績をあげてきました。その実績と評価をベースに以下のような事業を行っていくことを宣言します。

■事業目的とミッション

- 地域木材を活用し、地域の気候風土に合った「木の家」を供給する造り手をパートナーに迎え、住まい手に対して信頼ある家づくりの情報を発信していきます。
- 自然エネルギーやパッシブデザインの専門家の協力を得て、これまでの実績と効果をもとに自然エネルギー活用住宅の公的評価の取得をめざします。
- 関連事業者が参加するネットワークを構築し、自然エネルギーを活用した住宅を広く住まい手に提案して行きます。
- 住宅の温熱環境に、太陽と風と地熱など自然エネルギーを最大限活用する住宅の普及をはかっています。
- 稼働するためにさらにエネルギーを使う設備依存型の省エネルギー住宅ではなく、程々のエネルギーで、程よい温もり、程よい快適さが得られる少エネルギー住宅の啓蒙と普及をめざします。
- 少ないエネルギーでも健康的で快適な住まい方の研究、環境共生や自然エネルギー活用に係る、さまざまな研究を推進していきます。

■事業内容

- ①住まい手に対して、自然エネルギー活用に関する正しい情報を提供していきます。
- ②住まいの造り手を対象に自然エネルギー活用の勉強会等を開催していきます。
- ③自然エネルギー活用の調査、研究を推進します。
- ④自然エネルギー活用住宅の認知と普及を促進する広報活動を展開していきます。

皆様のご参加を心よりお待ちしております。

私たちの組織は、総会を中心に、信頼という幹で、太くつながっています。



お問合せ：

自然エネルギー活用住宅普及促進協議会事務局
〒140-0014 東京都品川区大井 1-23-3(フクビビル)
TEL(03)5709-3196(代) FAX(03)5709-3266
E-MAIL:info@shizenenergy-katsuyo.com